

外国籍の皆さんもあんきに暮らせる飛驒市



文化交流会の様子

近年、就労や技能実習のために海外から来日され、市内に居住される外国籍の方が増えています。

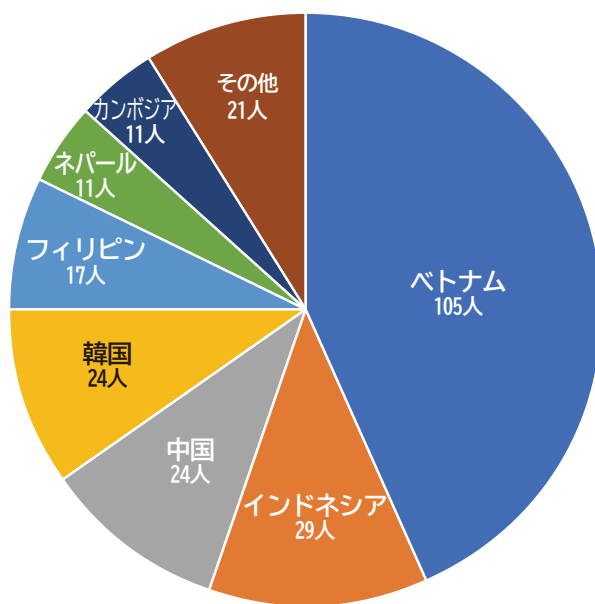
仕事だけでなく、日本人と結婚された方、日本文化を気に入って永住された方など理由はさまざま。日本に帰化された方、外国籍のまま暮らしている方など、置かれた立場も多様です。

現在では、市内の企業や病院、福祉施設などの職場で働いて、高齢化や人手不足に悩む企業や団体を支える存在になり、市の経済や市民の暮らしも支えていただいています。暮らしが安定することで、家族を呼んで一緒に暮らす世帯も徐々に増えてきました。

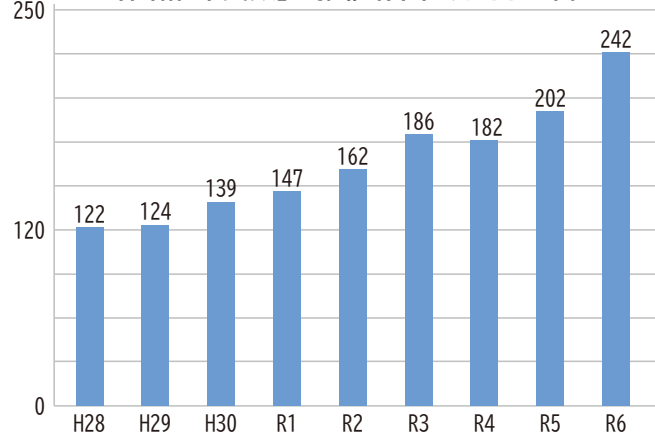
一方、地域住民の皆さんと関わる機会が少なく、互いの文化を理解しきれていないため、ちょっとしたすれ違いから問題が起きたり、互いを知らないことからの不安も生じているのが現状です。

飛驒市では、互いの文化を認め合い、安心して共に暮らせるまちを目指すため、多文化共生に関する取り組みを進めています。

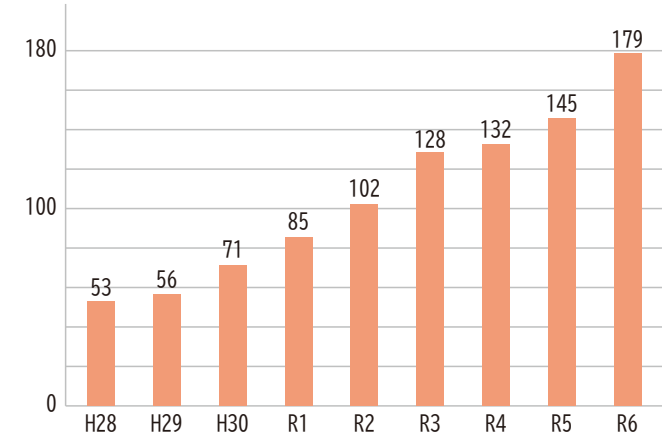
■国籍別外国人数(令和6年6月現在)



(人) ■外国籍「市民数」の推移(各年6月1日基準)



(世帯) ■外国籍「世帯数」の推移(各年6月1日基準)



飛騨市の多文化共生の現場で日々感じていることをうかがいました

岩塚久美子さんは、日本語教師としてベトナムや中国など海外でも活躍され、帰国後は日本在住の外国籍の方に日本語や日本の文化、ルールなどを指導されてきました。2019年からは岐阜県多文化共生推進員として、在住外国人や彼らを支援する人々や自治体のサポートなども担っています。外国人技能実習生の研修施設で日本語や生活習慣の指導もした経験をふまえ、長年多文化共生の現場を見つめてきた岩塚さんに大切にしたい心がまえなどをうかがいました。

岐阜県多文化共生推進員

いわつか くみこ
岩塚 久美子さん

■多文化共生のこれから

技能実習制度に代わり、新たに育成就労制度が導入されますが、これからの10年で、家族で来日されてそのお子さんも増えると予想されるので、学校のサポートが必要になってくると思います。下呂市ではすでに取り組みが始まっています。

地元の子たちも最初は不安に思うかもしれませんが、実際に外国の人は増えているので、社会の勉強として学校の授業を通じて取り組んでくださるようお願いしたいし、小さいうちから関心をもって学んでほしいですね。

■多文化共生に関わるときに大事なこと

日本での仕事や暮らしになじめない人もいるわけで、声をかけてもらえれば助けたいですが、困りごとがあっても相談できない人がいるのも現実です。

まずは彼らの生の声をていねいに聞くことが大事です。言い分を聞いてもらったという経緯が大切なんです。しっかり耳を傾けて「大変だね」とほめてあげたり、「これはおかしいと思う」といったことも全部聞いてあげて「何でも相談してね」と地道に声をかけていく



ことが大事だと考えています。そのうえで互いに歩みよることが大切ですね。

■活動への向き合い方

良かれと思うて行う体験会などに、外国の方はなかなか来てくれません。勤務先の関わりも大事ですが、やはり当人の気持ちが大切。催しの企画段階から外国の方に参加してもらい、何をするか一緒に考えていくべきだと思います。外国の方自身が何を望んで、何が楽しいかを盛り込むことが大切。これからは足並みを揃えて出来ることを考えていくべきだと思います。

■外国の人に住んでもらえる飛騨市になるために

飛騨は都会と比べ、給与面では劣りがちですが、家族で住む場所を選ぶ理由は決してそれだけではないんです。例えば嫁いできた人、移住した人と重ね合わせたり、自分ごととして見ると良いのでは。やはり地元の皆さんが、みんなで温かく迎えることが大切で、「来て良かったな」と思ってもらいたいですね。

それには大きなことは必要なくて、毎日あいさつするだけで、やがてきっと心を開いてくれる。それは子どもも同じなんです。全員で応援していると伝われば、もっと多くの人々が飛騨へ来てくれるようになると思っています。

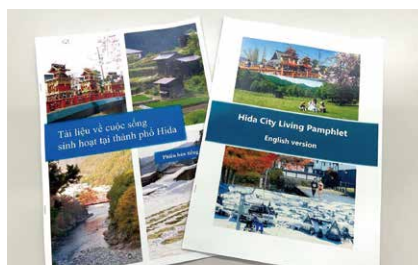


浴衣を着た中国人実習生の皆さんと

市の取り組み

地域と外国の方との
交流のための料理教室

路線バス乗り方講座



初めて飛騨市に住む方向けの「外国人向け暮らしのパフレット」の作成
(ベトナム語、英語、インドネシア語)



外国の方からの相談や、外国の方に関する市民からの相談を受け付ける総合窓口の設置



外国の方のための防災講習

交流の架け橋を担う飛騨市の人びと

飛騨市内には、外国籍の皆さんと地域の皆さんをつなぎ、互いに理解を深めるきっかけづくりや交流活動を継続して行っている方々がいます。今回は、そうした活動をしている2つの団体の代表者にお話をうかがいました。



飛騨国際交流推進委員会 代表
英語教室経営・農業

ながた じゅん

長田 潤さん

■どのような活動をしていますか？

外国の方と地域の皆さんをつなぐ機会をつくっています。出身国の料理と一緒に作って味わい、交流する体験会や、不特定多数の人にも関心をもってもらおうと地域のイベントに出店し、各国の料理の提供も行ったりします。雪に慣れていない人が多いので、地域の人とスキーや雪遊びを楽しむ機会なども設けています。

■活動するうえでの課題は？

まだ会ったことのない外国の方々はどこにいるかわからず、アプローチができないことです。数は増えているはずですが、個人情報でもあるので実態を把握することに苦労しています。

また、受入企業や技能実習生の監理団体側が、怪我や失踪というリスクを考えて我々がやっているようなイベントへ出しながらないという側面もあります。

外国の方同士も知り合い、助け合っているような土壌を地域の方からも作っていく必要があると思います。

■活動を通じて実現したいことは？

イベントをしなくても、外国の方と地域の方が日常的に交流できるようになると良いですね。外国の方の力はこれから必要ですし、市内に住む方は増え、その増加の速度も上がってくるはず。彼らの日々の問題を少しでも軽くして、憩いの場が1つでもあって、「居心地が良いから飛騨市にいる」という人が増えるといいですね。

外国の方は、「自分はよそ者」という感覚がありがち。東南アジアに住んでいた時、私自身もそうでした。

「寒いね」
「何してるの？」とか、
気軽に話しかけてもら
うと、彼ら
もきっと喜
びますよ。



スキー体験



ippo to the world 代表
日本語教師・異文化間コミュニケーション

たかちお ひとみ

高知尾 瞳さん

■どのような活動をしていますか？

外国の方と地域の方が交流できる機会を設けています。母国の文化を紹介したり、料理と一緒に作って味わったり、外国の方同士のつながり作りの会、防災勉強会、地元の先生から学ぶ茶道と着物の体験会なども行ってきました。他にも音楽ライブをしたり、やさしい日本語教室なども開催しました。コロナ禍で職場と家の行き来しかできず寂しかったと言っていた外国の方は会に参加してすごく喜んでくれましたし、地域の方からも外国の方と交流して新しいことが学べて良い経験になると喜ばれました。

■活動するうえでの課題は？

最初はもの珍しさで参加されますが、来る人が同じになりがちで、輪を広げるのが難しいです。あと、多文化共生という名のもと、外国の方が見世物のようになったり、お客様扱いのようになりがち。それぞれ事情も価値観も違うので、こまめに連絡をとり、1人1人の顔が見える関係で、それぞれが喜んでいる姿を見られたら嬉しいです。

■活動を通じて実現したいことは？

外国の方々にとっても、飛騨が「ふるさと」として感じられるようになってほしいと思います。私自身も移住者ですが、地域の皆さんに温かく迎え入れていただいて、こうした活動にも協力していただける関係性を築けたので、外国の方々も地域の方とのつながりを大切にしながら自分らしくいられたらいいと思います。

そのためにも今後も外国の方も交えた防災勉強会などを続けて、地域の方との関係づくりとお互いに学び合いができる活動をしていきたいと思っています。言葉が分からなくてもいい。「笑顔」で「ゆっくり」挨拶することから交流の一步を踏み出してみてください。



地域の納涼祭でライブ

今後、市では市内の小中学校で多文化共生に関する授業の実施や、外国籍の皆さんやそれぞれの国の文化を知るための取り組みを検討しています。

未来へとつなぐ飛騨市の取り組みには地域の皆さんの理解と協力も不可欠です。ぜひご参加ください。